

京極町 × 丸亀市

— 遠くて近い、ふたつのまち
歴史をたどり、未来を語る —



参加
無料

京極町・丸亀市親子都市協定締結 10 周年記念事業

親子都市文化交流会

会場 シアターマド（丸亀市民会館）小ホール
〒763-0034 香川県丸亀市大手町二丁目 3 番 1 号

募集定員 先着 200 名（事前申し込みが必要です）
申込期間：令和8年10月1日（木）～10月31日（土）

開催日時

令和 8. **11.7** 土
13:30～16:30

第1部 基調講演 北海道 京極町「忘れえぬ歴史に思い巡らす 130 年の物語」

講師 京極町教育委員会生涯学習課 ふるさと教育推進支援員 ^{よころ} ^{ゆたか} 横路 裕 氏

第2部 市民が語る開拓物語「香川から北の大地へ～未来をひらいた七人の男たち～」

第3部 京極町×丸亀市 クロストーク「地域のあたりまえは、宝もの」

登壇者 京極町高齢者学級「湧水塾」メンバー、京極町教育委員会生涯学習課 田中 敦司 氏
まらがめまなび文化遍路参加者、丸亀市協働推進部まなび文化課 村尾 剛志・藤本 高志

京極町と丸亀市 親子都市の歴史とこれから

北海道京極町と丸亀市は、旧丸亀藩主家・京極家を縁に親子都市協定を結び、交流を続けています。親子都市締結 10 周年を記念して開催する本交流会では、京極町の歴史や北海道開拓の歩みを学ぶ講演会、市民による「京極」をテーマとした学習成果発表、そして両地域の人々が魅力や未来について語り合うクロストークを行います。

歴史を知ることで見えてくる地域の魅力。人との出会いから生まれる新たな気づき。遠く離れていても、どこか通じ合う二つの地域の物語を、一緒にのぞいてみませんか。

申込方法

下記二次元コードをスマートフォンなどで読み込み、申込フォームに必要事項を入力して申込ください。

申込期間 令和8年 10 月 1 日（木）～10 月 31 日（土）

募集定員 200 名（定員に達し次第締め切ります。）

※下記ホームページより、当日のオンライン視聴もできます。



京極町マスコットキャラクター
ゆうくん・すいちちゃん



丸亀市キャラクター
京極くん



申込フォーム



ホームページ

京極町と丸亀市の関係について

北海道京極町と丸亀市は、旧丸亀藩主家である京極家を縁として交流を続けています。



明治時代には、丸亀市をはじめ香川県各地から多くの人々が北海道へ渡り、現在の京極町周辺の開拓に携わりました。京極町の町名は、当時の丸亀藩主家である京極家に由来しています。



平成 28 年には親子都市協定を締結し、子どもたちの交流や文化交流などを通じて絆を深めてきました。親子都市締結 10 周年となる今年、改めて両地域の歴史と魅力を見つめ直し、次の 10 年の交流について考えます。

親子都市文化交流会プログラム紹介

第 1 部 基調講演 北海道 京極町「忘れえぬ歴史に思い巡らす 130 年の物語」



講師 横路 裕 氏
京極町教育委員会生涯学習課
ふるさと教育推進支援員

講師紹介

1959 年（昭和 34 年）北海道京極町生まれ。1978 年（昭和 53 年）に京極町役場へ奉職し、2008 年（平成 20 年）から町教育委員会生涯学習課長、2014 年（平成 26 年）から学務課長、2019 年（令和元年）から教育長を務めた。退職後はふるさと教育推進支援員として、京極町の歴史や地域文化の移り変わりを歴史講座や企画展示を通して伝える活動に取り組んでいる。

第 2 部 市民が語る開拓物語（まるがめまなび文化遍路参加者による発表）

「香川から北の大地へ～未来をひらいた七人の男たち～」

「まるがめまなび文化遍路」は、市民が自らテーマを設定し、調査や対話を通じて学び、その成果を発信する丸亀市の参画型生涯学習事業です。今年度は、「京極でおもしろがる」をテーマとして参加者自らが調査・探究を重ね、北海道開拓の歩み、文化の違い等について学んできました。

本交流会では、まるがめまなび文化遍路参加者が、香川から北海道へ渡った先人たちの歩みや開拓の苦労について、物語形式のプレゼンテーションで発表します。また、水や食文化を切り口に、丸亀市と京極町の意外な共通点や違いについても紹介します。歴史、文化、暮らしのつながりから、親子都市の新たな魅力を発見してみませんか。



第 3 部 京極町×丸亀市 クロストーク「地域のあたりまえは、宝もの」

登壇者 京極町高齢者学級「湧水塾」メンバー、京極町教育委員会生涯学習課 田中 敦司 氏
まるがめまなび文化遍路参加者、丸亀市協働推進部まなび文化課 村尾 剛志・藤本 高志

両市町で暮らし、活動する方々が登壇し、それぞれの立場から地域の魅力や誇り、未来への思いを語り合います。

羊蹄山や湧水、瀬戸内海や丸亀城。地域を象徴する風景や歴史、人とのつながりは、住んでいる人にとっては当たり前
前の存在かもしれません。しかし、外から見るとそれはかけがえのない宝ものでもあります。

登壇者の対話を通じて、地域の魅力や価値を改めて見つめ直しながら、「自分たちのまちの宝ものとは何だろう」「未来に残したいものは何だろう」と思いを巡らせる時間となれば幸いです。親子都市の次の 10 年、そして未来へ受け継ぎたい「地域の宝もの」について、一緒に考えてみませんか。

